

花まつりのお話

四月八日は、お釈迦さまの御誕生日であります。お釈迦さまは、今から二千五百年前、花匂うルンビニーの里でお生まれになりました。

昔から四月八日をお花まつりといつて、色とりどりの春の花で飾った花御堂を作り、誕生仏をお祀りして甘茶を灌いでお祝いをしていただきます。小さな国ながら釈迦族を統治するカピラ城の皇太子としてお生まれになりましたのでありますが、お生まれになるとすぐ七歩お歩きになり、右手は天を指し、左手は地を指して「天上天下唯我独尊」（てんじょうてんげゆいがどくそん）とお叫びになったと伝えていきます。

このお言葉は、今もって多くの人たちに誤って使われ、また誤った解釈をされています。「この世の中で自分ほどえらい者はいないんだ、我こそ天下国家を統治する指導者である。」と独り善がりの言葉として使用されていますが、これはまったくの誤りであります。

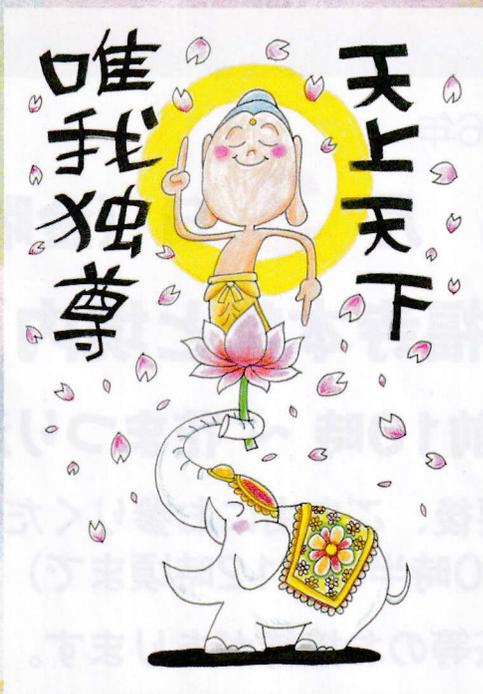
天上天下ということとは自分の上、自分の下、すなわち全宇宙ということであります。全宇宙のいのちと恵みを一身に受けて、一人の人間として生まれて来た素晴らしさ、尊さをお叫びにいたしましたであります。これはお釈迦さまだけのことではなく、私たち一人ひとりの人間は、人間として唯一無二の心と身体を持って生まれたことの喜びの声であったのであります。あわれにも、獣（けもの）として生まれたものは、その身体を整えることも、心を律し、言葉を正しくすることも知らないで一生を終えるのであります。

生まれながらにして私たち一人ひとり、尊い身体、言葉、心を持って生まれて来ているのでありますから、生まれながらにして一人の仏として生まれて来ているのと同じく、仏教の基本であります。仏教では仏と人の区別差別をしない、これが仏教であり、その心は東洋の心として総べての東洋思想の根本となっているのであります。

さらに、お釈迦さまが七歩、歩かれたということは、生まれながらにして、地獄、餓鬼、畜生、修羅、人、天の心の迷いのうべき六道輪廻の世界を、ただ、ぐるぐると迷い歩くだけではなく、これを既に一歩踏み出されて、真実の人の人たる道を歩こうとされる心とお姿を表しています。

二十九歳で、お城を出られたお釈迦さまは六年間、山に籠って人の道、仏の道を求められ三十五歳の十二月八日、遂に仏さまと成られました。四月八日のお花まつりはお釈迦さまの御誕生をお祝いするとともに、人間生命の賛歌を謳う聖日というべきであります。

高野山真言宗檀信徒必携より



画 富永洋さん

○善の根を植えよう

『仏教聖典』

○遇い難くして今逢うことを得たり

『頭浄土真実教行証文類』



徹林山 勝福寺